厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

侵襲性真菌症例から分離された原因真菌の分子疫学解析と疫学データベース化を用いた院内感染対策の研究

平成26年度　総括研究報告書

研究代表者　田辺　公一

（国立感染症研究所）

平成27（2015）年　3月

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

侵襲性真菌症例から分離された原因真菌の分子疫学解析と疫学データベース化を用いた院内感染対策の研究

平成26年度　総括研究報告書

研究代表者　田辺　公一

（国立感染症研究所）

平成27（2015）年　3月

目　次

I. 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業）
総括研究報告書

侵襲性真菌症例から分離された原因真菌の分子疫学解析と疫学データベース化を用いた院内感染対策の研究

研究代表者　田辺　公一
国立感染症研究所　真菌部　第一室室長

研究要旨

Candida 属や *Aspergillus* 属による侵襲性真菌症に関する疫学研究は乏しく、治療ガイドラインは設けられているが予後は一般に不良である。*Candida* 属は臨床検体から最も頻繁に分離される真菌であり、院内感染を引き起こすような高病原性株が存在することが報告されている。分離された *Candida* 属の疫学情報（遺伝学的系統解析結果や薬剤感受性試験結果）が充実すれば、高病原性株や薬剤耐性株の早期発見が可能になり、院内感染対策や治療方針の決定に大きく貢献できるものと期待される。本研究では、侵襲性感染を引き起こした *Candida* 属を医療機関から提供していただくネットワークを構築し、継続的サーベイランスを行うこと、また、提供された菌株の遺伝子型解析を行い、侵襲性感染や薬剤耐性化を起こしやすい株の予測を可能にすることを目的とした。

平成２６年度は、２５年度に引き続き医療機関より送付いただいた *Candida albicans* 株の MLST 遺伝子型解析と薬剤感受性生試験を行い、菌が分離された臓器と遺伝子型との相関について検討を行った。

A．研究目的

本研究では、国内の主要医療機関において侵襲性感染を引き起こした *Candida* 属、特に分離頻度の高い *C. albicans* を収集し、感染症発生動向と分離菌の薬剤感受性を検証することを目的とする。分離された菌の菌学的解析、分子疫学的解析を通じて、これらに共通する特定の遺伝学的パターンや因子の存在を検討する。さらに、特定分子系統の菌種において発病がより高頻度に認められるのかの検討を行い、最終的に分子疫学型と予後に関するデータベースを構築する。これにより、どのような症例により重大な関心を払うべきかや、発病リスクを低減する院内環境整備など内因性感染、院内感染対策に活用することで生命予後の改善を図るとともに、効果的な治療を通じた国民医療費軽減にも貢献することを目的とする。

平成２６年度は、医療機関において

分離される *Candida* 株を分離臓器の区別なく送付いただいた。菌種同定を行い、*C. albicans* についてコロニーPCR 産物を用いた迅速かつ簡便な実験手法で Multi Locus Sequence Typing (MLST) によって各株の遺伝子型解析を行った。また、対象とする菌株を用いて、簡易的な薬剤感受性試験を行い、耐性株の有無のみを調べた。以上の解析結果と、分離臓器との相関を検討した。

B．研究方法

＜菌株輸送のプロトコル＞

埼玉医科大付属病院・検査部より月２回を目安に、臨床検体（皮膚、喀痰、血液、膿など）から分離された酵母様真菌を分与いただいた。介入は行わず検査の一環で分離された菌株のみを対象とした。平成 26 年度は血液培養分離株を中心に 96 株を分与いただいた。

＜*Candida* 株遺伝子解析＞

リボソーム DNA の塩基配列から菌種を同定し、*C. albicans* であった株について 7 遺伝子の特定の領域をコロニーPCR で増幅し、塩基配列を決定し MLST 解析を行った。

（倫理面への配慮）

菌株が分離された臓器や患者の疾患名など、臨床情報を利用した解析を予定しているので、埼玉医科大付属病院、国立感染研ともに医学研究倫理審査委員会の承認を得る手続きを平成 24 年度までに完了した。

C．研究結果

＜*Candida* 株遺伝子解析＞

MLST 解析に必要な増幅する遺伝子名および遺伝子領域の長さは以下のとおりである。

表 1　MLST 解析に用いた遺伝子

gene name	length(bp)
AAT1a	373
ACC1	407
ADP1	443
MPIb	375
SYA1	391
VPS13	403
ZWF1b	491

(http://www.mlst.net/)

比較的短い領域であるために、追加のプライマーは設定せず、増幅に用いたプライマーで双方の末端から塩基配列決定を行った。

埼玉医大より 96 株の *Candida* 株を分与いただき、解析を行った。まずリボソーム DNA の塩基配列を決定し、遺伝子データベース情報検索から 57 株（59.4%）が *C. albicans* であることを確認し、MLST 解析に進めた。

今年度は、キャンディン系抗真菌薬に低感受性である *C. parapsilosis* の分離頻度が前年度 0.63%から 8.3%に増加していた。

遺伝子型については百種類以上が登録されており、互いに完全一致するケースは少ないが、配列の相同性を利用したクレード分類を行った。前年度

の結果を合わせて、分離臓器と遺伝子型の比較検討を行った。血液培養分離株ではクレード番号４、９が多かったのに対して、定着と考えられる尿からの分離株はクレード番号１のものが多かった。

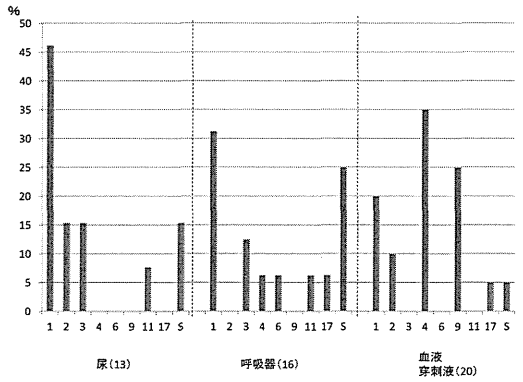


図１　MLST 解析結果（クレード分類）

D．考察

2 年間収集した C. albicans を用いて MLST 解析を行い、分離臓器によって遺伝子型の分布が異なることを見出した。本検討における遺伝子型解析を行った株数はまだ十分ではないが、血液培養分離株の遺伝子型は互いに共通性があることが予想された。欧州で行われた同様の検討においては、特定の遺伝子型クレードに属する *C. albicans* 株が血液培養から分離される頻度が高いという報告がある（Eukaryot Cell. 2007 Jun;6(6):1041-52.）。これらの結果は、すべての *C. albicans* 株が同じ確率で重症の血流感染症を引き起こすのではなく、血流感染を引き起こすリスクが *C. albicans* 株によって異なること、またそのリスクは MLST などの遺伝子型解析で予測が可能であることを示唆している。この仮説をさらに検証するために、さらに多数の検体を複数の医療機関から分与いただき、解析する必要がある。

また、平成 26 年度は分与いただいた株のうち *C. parapsilosis* の分離頻度が顕著に増加していた。この結果は、キャンディン系抗真菌薬が第一選択薬になりつつある臨床背景を反映するものと推測される。キャンディン使用量の増加にともない *C. parapsilosis* の分離頻度が上昇したという報告は他の医療機関からも報告されており、分離頻度の動向を注視する必要がある。

MLST 解析より、分与いただいた株は互いに同一の株はほとんど存在しなかったことから *Candida* 株が一人の患者から派生して院内感染を引き起こす可能性は極めて低く、多くの *Candida* 感染症は各患者に常在していた菌が播種性感染を引き起こす孤発性のものであると考えられる。したがって本検討は、院内感染対策よりも、各患者の保有する菌株が重症感染症を引き起こすかどうかのリスク評価への応用を目指すべきであると考えられた。

E．結論

C. albicans 株の MLST 解析結果から、血液培養分離株の遺伝子型には、互いに共通性があることを示唆する結果が得られた。

Ｆ．健康危険情報
該当なし

Ｇ．研究発表
論文発表
原著論文
英文
1. Saraya T, Tanabe K, Araki K, Yonetani S, Makino H, Watanabe T, Tsujimoto N, Takata S, Kurai D, Ishii H, Miyazaki Y, Takizawa H, Goto H. Breakthrough invasive Candida glabrata in patients on micafungin: a novel FKS gene conversion correlated with sequential elevation of MIC. Journal of Clinical Microbiology. 52(7):2709-2712, 2014.

2. Urai M, Kaneko Y, Niki M, Inoue M, Tanabe K, Umeyama T, Fukazawa H, Ohno H, Miyazaki Y. Potent drugs that attenuate anti-Candida albicans activity of fluconazole and their possible mechanisms of action. J Infect Chemother. 20(10):612-615, 2014.

総説
和文
1. 田辺公一, 宮崎義継. 耐性病原体up-to-date～耐性メカニズムから治療戦略まで～、I 抗微生物薬に対する耐性メカニズム、2 抗真菌薬耐性. 化学療法の領域. 30(S-1):20-5, 2014 年.

国内学会
1. 梅山 隆, 山越 智, 田辺公一, 名木 稔, 大野秀明, 宮崎義継. アスペルギルスの抗真菌薬耐性. 第 58 回日本医真菌学会総会・学術集会. 11 月 1-2 日, 2014 年, 横浜.
2. 壇辻百合香, 大野秀明, 梅山 隆, 上野圭吾, 大久保陽一郎, 田辺公一, 名木 稔, 山越 智, 金城雄樹, 杉田 隆, 澁谷和利, 宮崎義継. マクロファージの貪食を指標とした Cryptococcus gattii 感染病態の評価. 第 58 回日本医真菌学会総会・学術集会. 11 月 1-2 日, 2014 年, 横浜.
3. 浦井 誠, 金子幸弘, 上野圭吾, 田辺公一, 梅山 隆, 山越 智, 金城雄樹, 大野秀明, 杉田 隆, 宮崎義継. 高病原性 Cryptococcus gattii の莢膜多糖成分が免疫細胞に及ぼす影響. 第 58 回日本医真菌学会総会. 11 月 1-2 日, 2014 年, 横浜.
4. 田辺公一, 宮崎義継. カンジダ症における薬剤耐性. 第 97 回日本細菌学会関東支部総会. 10 月 30-31 日, 2014 年, 東京.
5. 名木 稔, 田辺公一, 石野敬子, 梅

山 隆, 山越 智, 大野秀明, 宮﨑義継. 真菌の薬剤耐性の現状と課題. 第 63 回日本感染症学会東日本地方会学術集会. 10 月 29-31 日, 2014 年, 東京.

6. 田辺公一, 大野秀明, 名木 稔, 浦井 誠, 金子幸弘, 梅山 隆, 山越 智, 宮﨑義継. カンジダ属の抗真菌薬耐性. 第 35 回関東医真菌懇話会. 6 月 7 日, 2014 年, 東京.

7. 田辺公一, 大野秀明, 名木 稔, 浦井 誠, 金子幸弘, 梅山 隆, 山越 智, 荒木光二, 皿谷 健, 宮﨑義継. ミカファンギン耐性 Candida glabrata 株の in vitro 性状解析. 第 35 回関東医真菌懇話会. 6 月 7 日, 2014 年, 東京.

8. 浦井 誠, 金子幸弘, , 稲垣浩司, 狩谷哲芳, 政本大二郎, 水谷 真, 名木 稔, 上野圭吾, 山越 智, 田辺公一, 梅山 隆, 大川原明子, 金城雄樹, 大野秀明, 宮﨑義継. 腹膜透析中に発症した Cryptococcus laurentii による腹膜炎の一例. 第 35 回関東医真菌懇話会. 6 月 7 日, 2014 年, 東京.

9. 梅山　隆, 大野秀明, 田辺公一, 山越　智, 名木稔, 宮﨑義継. 症例から学ぶ感染症セミナーームーコル症の真菌同定検査. 第 88 回日本感染症学会学術講演会・第 62 回日本化学療法学会総会合同学会. 6 月 18 日-20 日, 2014 年, 福岡.

10. 梅山　隆, 山越　智, 田辺公一, 名木稔, 金子幸弘, 金城雄樹, 大野秀明, 宮﨑義継. 病原糸状菌 Aspergillus fumigatus の Polo-like キナーゼ遺伝子破壊株の菌糸成長・分生子形成・抗真菌薬感受性への影響. 第 88 回日本感染症学会学術講演会・第 62 回日本化学療法学会総会合同学会. 6 月 18 日-20 日, 2014 年, 福岡.

11. 田辺公一, 大野秀明, 名木 稔, 浦井 誠, 金子幸弘, 梅山 隆, 山越 智, 知花博治, 亀井克彦, 宮﨑義継. カンジダ属の抗真菌薬感受性の変貌. 第 88 回日本感染症学会学術講演会第 62 回日本化学療法学会総会合同学会. 6 月 18-20 日, 2014 年, 博多.

12. 浦井 誠, 金子幸弘, 田辺公一, 梅山 隆, 山越 智, 金城雄樹, 大野秀明, 杉田 隆, 宮﨑義継. 高病原性 Cryptococcus gattii 由来莢膜多糖の免疫細胞に及ぼす影響. 第 88 回日本感染症学会学術講演会第 62 回日本化学療法学会総会合同学会. 6 月 18-20 日, 2014 年, 博多.

H. 知的財産の出願・登録状況（予定を含む）

該当なし

II. 研究成果の刊行に関する一覧表・別刷

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Saraya T, Tanabe K, Araki K, Yonetani S, Makino H, Watanabe T, Tsujimoto N, Takata S, Kurai D, Ishii H, Miyazaki Y, Takizawa H, Goto H	Breakthrough invasive Candida glabrata in patients on micafungin: a novel FKS gene conversion correlated with sequential elevation of MIC.	Journal of Clinical Microbiology	52(7)	2709-2712	2014
Urai M, Kaneko Y, Niki M, Inoue M, Tanabe K, Umeyama T, Fukazawa H, Ohno H, Miyazaki Y.	Potent drugs that attenuate anti-Candida albicans activity of fluconazole and their possible mechanisms of action.	J Infect Chemother	20(10)	612-615	2014

和文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田辺公一，宮崎義継	耐性病原体up-to-date～耐性メカニズムから治療戦略まで～	化学療法の領域	30(S-1)	20-25	2014

JCM
Journals.ASM.org

CASE REPORT

Breakthrough Invasive *Candida glabrata* in Patients on Micafungin: a Novel *FKS* Gene Conversion Correlated with Sequential Elevation of MIC

Takeshi Saraya,[a] Koichi Tanabe,[b] Koji Araki,[c] Shota Yonetani,[c] Hiroshi Makino,[c] Takayasu Watanabe,[a] Naoki Tsujimoto,[a] Saori Takata,[a] Daisuke Kurai,[a] Haruyuki Ishii,[a] Yoshitsugu Miyazaki,[b] Hajime Takizawa,[a] Hajime Goto[a]

Kyorin University School of Medicine, Department of Respiratory Medicine, Mitaka, Tokyo, Japan[a]; Department of Chemotherapy and Mycoses, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan[b]; Kyorin University School of Medicine, Department of Laboratory Medicine, Mitaka, Tokyo, Japan[c]

***Candida glabrata* strains sequentially isolated from blood developed resistance to micafungin (MICs from <0.015 to 4 μg/ml). A novel mutation identified in micafungin-resistant strains at bp 262 of *FKS2* (containing a deletion of F659 [F659del]) was inserted into the homologous region in *FKS1*.**

CASE REPORT

A 93-year-old man was admitted to our hospital with a diagnosis of pulmonary tuberculosis (day 1). The patient had been receiving treatment for essential hypertension with chronic renal failure for a decade. On admission, the patient's vital signs were normal; however, serum laboratory data showed a marked elevation of creatinine (Cr) (4.7 mg/dl) and blood urea nitrogen (BUN) (74.5 mg/dl). After initiation of antituberculous therapy with oral isoniazid (300 mg/day) plus rifampin (450 mg/day), renal failure progressed (Cr, 7.0 mg/dl) due to drug-induced myoglobinemia (1,000 ng/ml) with uremic symptoms. Although an urgent flexible double lumen (FDL) catheter was introduced into the internal jugular vein, readministration of isoniazid (day 18) caused severe rhabdomyolysis (myoglobinemia, 25,650 ng/ml), with a recurrence of the uremic symptoms.

On day 27, the patient suddenly went into a state of shock with high fever and was empirically treated with intravenous meropenem (0.5 g/day), vancomycin (0.5 g, every 48 h [q48h]), and fluconazole (200 mg/day) based on a tentative diagnosis of aspiration pneumonia or catheter-related bloodstream infection complicated by sepsis. On the same day, two sets of blood cultures and serum endotoxin antigen were negative except for an elevation of β-D-glucan (133 pg/ml). On day 32, the patient's serum value of β-D-glucan rose to 530 pg/ml, and he had a positive result for serum galactomannan (*Aspergillus* antigen) of 4.5, thrombocytopenia (6.4×10^3 platelets/μl), and leukocytopenia (2.0×10^3 leukocytes/μl). Therefore, the fluconazole was changed to voriconazole (6 mg/kg of body weight/day, q12h) with the intent of targeting *Aspergillus* spp. However, on day 35, a blood culture collected on day 32 (strain NO1) was identified as *Candida glabrata*; therefore, voriconazole was changed to intravenous micafungin (100 mg/day) according to the Infectious Diseases Society of America (IDSA) 2009 guidelines (1). A blood culture taken on day 34 (NO2) also was positive for *C. glabrata*; however, after initiation of treatment with micafungin, the persistent fever subsided, and a blood culture taken at day 37 was negative for the yeast. Both strain NO1 and strain NO2 were susceptible to micafungin (MIC, <0.015 μg/ml) but susceptible-dose dependent to fluconazole (MIC <8 μg/ml) by Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) broth microdilution (BMD) methods (CLSI document M27-S4). With regard to voriconazole, no breakpoint was determined for *C. glabrata*. In spite of two rounds of replacement of the FDL catheter, the serum value of β-D-glucan remained high (>600 pg/ml), and blood cultures taken on day 48 (NO3) and day 51 (NO4) again yielded *C. glabrata*. Based on the suspicion of a micafungin-resistant strain, micafungin treatment was changed to intravenous liposomal amphotericin B (3 mg/

Received 26 December 2013 Returned for modification 23 January 2014
Accepted 18 April 2014
Published ahead of print 30 April 2014
Editor: D. J. Diekema
Address correspondence to Takeshi Saraya, sara@yd5.so-net.ne.jp.
T.S. and K.T. are co-first authors.
Supplemental material for this article may be found at http://dx.doi.org/10.1128/JCM.03593-13.

doi:10.1128/JCM.03593-13

TABLE 1 Drug susceptibilities of isolated *Candida glabrata* strains

Strain	MIC (μg/ml) of[a]:						
	MCFG (S, R)	AMPH-B (S)	5-FC (S)	FLCZ (SDD)	ITCZ (S, SDD)	VRCZ	PSCZ
NO1	<0.015	1	<0.12	8	1	0.5	2
NO2	<0.015	1	<0.12	8	1	0.5	0.5
NO3	<0.015	0.5	<0.12	4	0.5	0.25	0.5
NO4	2	1	<0.12	4	1	0.25	0.5
NO5	4	0.5	<0.12	8	1	1	2

[a] AMPH-B, amphotericin B; 5-FC, 5-flucytosine; FLCZ, fluconazole; ITCZ, itraconazole; MCFG, micafungin; VRCZ, voriconazole; PSCZ, posaconazole; R, isolates were resistant; S, isolates were susceptible; SDD, isolates were susceptible, depending on the dose.

TABLE 2 Genetic characterization of isolated *Candida glabrata* strains[b]

Strain (MIC [μg/ml] of MCFG)	Characterisitic(s) of gene:	
	FKS1	*FKS2*
NO1 (<0.015)	Wild type	Wild type
NO2 (<0.015)	Wild type	Wild type
NO3 (<0.015)	Wild type	F659Δ L1767Δ
NO4 (2)	Gene conversion[a]	F659Δ
NO5 (4)	Gene conversion[a]	F659Δ

[a] The gene with the insertion is predicted to encode an Fks1 protein with the following changes: M555T, V558I, L563V, V568I, T583S, H600Q, A620S, and Y623Δ.
[b] MCFG, micafungin. The sequence type for every strain was 22.

kg/day) on day 53. However, *C. glabrata* was still isolated from a blood culture taken on day 56 (NO5), and the patient died of septic shock on day 59. Following the patient's death, the NO3 strain was shown to be susceptible to micafungin (MIC, <0.015 μg/ml), while the NO4 and NO5 strains showed resistance to micafungin (based on CLSI document M27-S4), the MICs of which were 2 and 4 μg/ml, respectively (Table 1).

We performed morphological and genetic analyses for isolates NO1 to NO5. Interestingly, colonies observed in the isolation step for the NO1 and NO2 strains (Fig. S1A in the supplemental material) were of a size typical of *C. glabrata* ("normal"; they were light purple); in contrast, colonies for the NO3 and NO4 strains (Fig. S1B in the supplemental material) were heterogeneous, consisting of a mixture of small dark-purple and normal light-purple colonies, and the isolation step for NO5 (Fig. S1C in the supplemental material) yielded colonies of uniform size that were consistently small and darkly colored on CHROMagar *Candida* medium (Becton, Dickinson and Company). The change in colony size was thought to be due to mitochondrial deficiency (petite mutant) or *FKS* mutations, as described below. These results also suggest that the blood culture from which NO3 and NO4 were isolated contain several *C. glabrata* clones with heterogeneous growth rates. To examine whether the five clinical isolates originated from a single strain, randomly amplified polymorphic DNA (RAPD) and multilocus sequence typing (MLST) analyses were performed. Briefly, the template genomic DNA was extracted from *C. glabrata* cells, and a series of PCR and DNA sequencing reactions were performed using the primers indicated in Table S1 in the supplemental material. In RAPD assays (performed per previously reported methods [2]), all five of the tested strains yielded identical amplification patterns (data not shown). Furthermore, MLST analysis revealed that the five strains demonstrate a shared sequence type, ST22 (Table 2) (http://cglabrata.mlst.net/). These results suggest that the strains were probably derived from a single parental strain; however, more-detailed genetic analyses would be necessary for identification of the source of the strains.

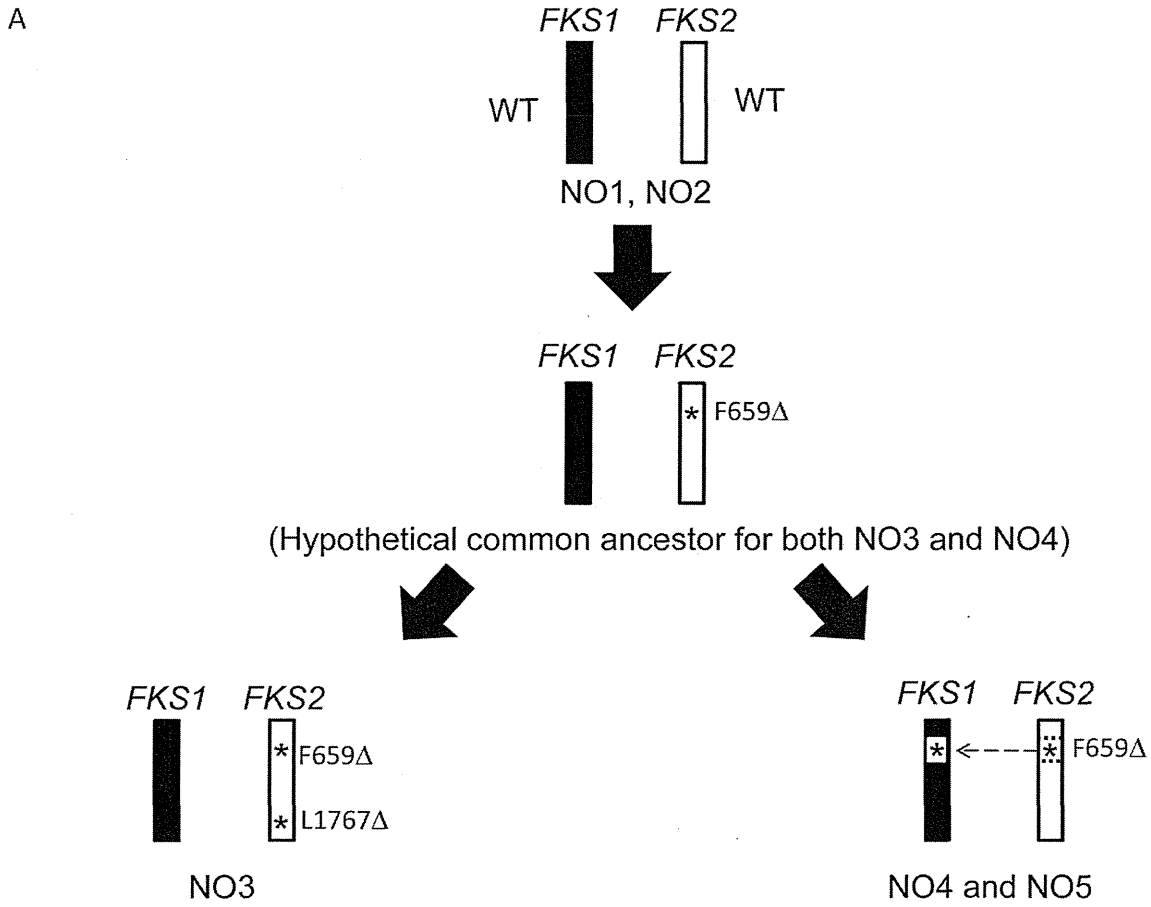
Cases harboring *Candida* spp. with reduced susceptibility to echinocandins are still uncommon, and strains of *C. glabrata* ranked as nonsusceptible to echinocandin have been reported only rarely in Japan (3, 4, 5). In previous reports, reduced susceptibility to echinocandins was related primarily to single point mutations within the *FKS* genes, which code for β-1,3-glucan-synthases. A total of 48 distinct mutations have been reported in 5 different yeast species, with 44 lesions occurring in hot spot 1 and 4 lesions occurring in hot spot 2 (6, 7, 8). The majority of the *FKS1* mutations are predicted to result in an amino acid substitution at S629P (9), Phe625 (F625S or F625I), or Asp632 (D632G, D632E, or D632Y); *FKS2* mutations are predicted to result in a substitution (F659V, F659S, or F659Y) (10) or a deletion (a deletion of F659 [F659del]) (11) in Phe659, as well as multiple mutations in residues 662 to 667, especially S663P (12, 13).

We determined the entire coding sequences of *FKS1* and *FKS2* in the five isolates (NO1 to NO5). Briefly, the entire *FKS* genes (7,332 bp and 7,941 bp for *FKS1* and *FKS2*, respectively) were amplified by PCR from genomic DNA extracted from each strain, and DNA sequences of the PCR fragments were determined as described elsewhere but with different set of primers (see the primer list in Table S1 in the supplemental material) (5). The *FKS* sequences of the *C. glabrata* strains were reconfirmed with an independent analysis. In comparison to database sequences (the GenBank [https://www.ncbi.nlm.nih.gov/genbank/] accession numbers for *FKS1* and *FKS2* are HM366440 and HM366442, respectively), both NO1 and NO2 do not have any mutations which cause amino acid substitutions in both *FKS1* and *FKS2*. The subsequently isolated strain NO3 harbored two deletion mutations (F659del and L1767del) in *FKS2* (Table 2 and Fig. 1A). It was curious that NO3 was still susceptible to micafungin (MIC <0.015 μg/ml); however, F659del in *FKS2* was thought to confer echinocandin resistance, as mentioned above (11, 12). It was also demonstrated that the laboratory-constructed *C. glabrata* mutant which had F659del in *FKS2* was susceptible to echinocandins (8). These observations all together suggest that F659del in *FKS2* alone does not necessarily confer echinocandin resistance to *C. glabrata*. It is also conceivable that L1767del in *FKS2* or an unknown genetic modification(s) other than those in *FKS* genes suppress the effect of F659del; however, we have no evidence supporting these hypotheses.

In micafungin-resistant NO4 and NO5, bp 262 of the *FKS2* sequence (containing F659del) was substituted for the homolo-

FIG 1 (A) Proposed model for the introduction of mutations into *FKS* genes. The flow chart of *FKS1* and *FKS2* modification is schematically rendered. The *FKS1*-type sequence and *FKS2*-type sequence are black and white, respectively. The representative point mutations which resulted in an amino acid substitution are designated with asterisks. *FKS2* in NO3 carries two mutations, resulting in a predicted protein harboring F659del and L1767del (bottom left). In contrast, *FKS2* in strains NO4 and NO5, both isolated from the patient subsequent to NO3's isolation, carries the F659del-encoding mutation alone (bottom right). This discrepancy suggests that NO3 and NO4 originated from a common ancestor (center middle) that was presumably susceptible to micafungin. The blood culture from which NO3 and NO4 were isolated also may have contained this hypothetical strain. (B) Alignment of flanking sequences around the region of the *FKS* gene substitution. *FKS1* in NO3 (top), *FKS1* in NO4 (middle, bold), and *FKS2* in NO4 (bottom) are aligned for comparison. The numbering represents positions within the respective open reading frame, and the conserved nucleotides are highlighted by gray shading. The *FKS1* sequence in NO4 is identical to a homologous *FKS2* sequence in NO4 from bp 1635 to 1899 (numbering for *FKS1* is above the alignment), whereas the *FKS1* sequence in NO4 is identical to parental *FKS1* in NO3 both upstream of bp 1635 and downstream of bp 1899. The F659del-encoding mutation in *FKS2* also was inserted into *FKS1* in NO4 (arrow). The resulting eight amino acid substitutions from the gene conversion are designated with single letters above and below the alignment (above for parental Fks1p amino acid residues and below for Fks2p; asterisks indicate amino acid residues conserved between Fks1p and Fks2p). The hot spot region related to echinocandin resistance is underlined. WT, wild type.

A



B

```
NO3 FKS1 1525-GCAGGTGCTCAACATCTTTCCCGTAGATTTTGGTTCTTATGTTTGATTTTTGCAGTTAACTTGGGTCCAATTATT-1599
NO4 FKS1 1525-GCAGGTGCTCAACATCTTTCCCGTAGATTTTGGTTCTTATGTTTGATTTTTGCAGTTAACTTGGGTCCAATTATT-1599
NO4 FKS2 1627-GCTGGTGCTCAACATTTATCTCGTAGGTTTTGGTTTTTATGTGGTATCCTAGGTGTTAATCTTGGTCCTTTAATT-1701

                                                  1635
                                                  |  *  *  *  *  *  *  *  *  *  M  *  *  V
NO3 FKS1 1600-TTTGTCTTCGCTTATGAAAAGGACACTGTTCAATCAAAGGCAGGCCACGCGGTTGCTGCGGTCATGTTCTTTGTT-1674
NO4 FKS1 1600-TTTGTCTTCGCTTATGAAAAGGACACTGTTCAATCGAAGGCTGGTCATGCTGTAGCAGCTGTAACGTTTTTCATT-1674
NO4 FKS2 1702-TTTGTCTTTGCTTATGAAAAGGACACTGTTCAATCGAAGGCTGGTCATGCTGTAGCAGCTGTAACGTTTTTCATT-1776
                                                        *  *  *  *  *  *  *  *  T  *  *  I

                  *  *  *  *  L  *  *  *  *  V  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  T
NO3 FKS1 1675-GCAGTCGCTACATTGCTATTTTTCTCAGTCATGCCATTGGGTGGTCTGTTCACGTCCTACATGCAAAAGTCTACC-1749
NO4 FKS1 1675-GCTGTGGCCACTGTTTTATTCTTCTCGATTATGCCATTAGGTGGTCTTTTCACCTCATATATGCAAAAATCAAGT-1749
NO4 FKS2 1777-GCTGTGGCCACTGTTTTATTCTTCTCGATTATGCCATTAGGTGGTCTTTTCACCTCATATATGCAAAAATCAAGT-1851
                  *  *  *  *  V  *  *  *  *  I  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  S

                  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  H  *  *  *  *  *  *  *  *
NO3 FKS1 1750-AGACGTTACGTCGCTTCTCAAACCTTCACTGCCTCCTTTGCACCTTTGCATGGTCTTGACAGATGGTTGTCTTAC-1824
NO4 FKS1 1750-AGAAGATATGTTGCTTCTCAGACTTTCACCGCATCTTTTGCCCCATTACAAGGTTTGGATAGATGGTTATCTTAT-1824
NO4 FKS2 1852-AGAAGATATGTTGCTTCTCAGACTTTCACCGCATCTTTTGCCCCATTACAAGGTTTGGATAGATGGTTATCTTAT-1926
                  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  Q  *  *  *  *  *  *  *  *
                                                                                        1899
                                                                                        |
                  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  A  *  *  *  Y  F  *  *  *  *  *  *  *  *
NO3 FKS1 1825-CTGGTTTGGGTTACTGTTTTTGCTGCTAAGTACGCTGAATCATACTACTTCTTGATTCTATCTCTAAGAGATCCA-1899
NO4 FKS1 1825-TTAGTTTGGGTTACTGTTTTTGCTGCCAAGTACTCTGAATCGTACTTC---TTGATTTTGTCTCTAAGAGACCCT-1896
NO4 FKS2 1927-TTAGTTTGGGTTACTGTTTTTGCTGCCAAGTACTCTGAATCGTACTTC---TTGATTTTGTCTCTAAGAGACCCT-1998
                  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  *  S  *  *  *  F  *  *  *  *  *  *  *  *
                                                     F659del

NO3 FKS1 1900-ATCAGAATTTTGTCTACCACTACCATGAGATGTACTGGTGAATACTGGTGGGGTTCAAAGCTATGTAGACATCAA-1974
NO4 FKS1 1897-ATCAGAATTTTGTCTACCACTACCATGAGATGTACTGGTGAATACTGGTGGGGTTCAAAGCTATGTAGACATCAA-1971
NO4 FKS2 1999-ATCAGAATTTTATCAACTACTACCATGAGATGTACTGGTGAGTATTGGTGGGGTTCAAAGTTATGTAGACATCAA-2073
```

gous region of *FKS1*, resulting in a predicted protein harboring multiple amino acid mutations (M555T, V558I, L563V, V568I, T583S, H600Q, A620S, Y623del) compared to the parental sequence (Table 2 and Fig. 1B). One possible cause for the micafungin resistance in NO4 and NO5 is the multiple mutations in *FKS1* resulting from the genetic substitution from *FKS2* to *FKS1*; however, both NO4 and NO5 still keep F659del in *FKS2*, presumably related to echinocandin resistance (Fig. 1A and B). It is ambiguous which *FKS* mutation(s) conferred micafungin resistance to NO4 or NO5; therefore, each *FKS* gene in NO4 and NO5 should be separately expressed in a *C. glabrata* laboratory strain and functionally characterized in future work.

Also of note was the fact that the mutation encoding L1767del in *FKS2* (observed in NO3) was not observed in NO4 and NO5. The loss of this mutation indicates that NO3 and NO4 developed from a common ancestor whose *FKS2* gene harbored the F659del-encoding mutation alone (Fig. 1A). Thus, the heterogeneous colony sizes observed in NO3 and NO4 may reflect the existence of a population of *C. glabrata* organisms carrying heterogeneous *FKS* gene sequences in NO3 and NO4.

To our knowledge, this is the first report suggesting that a genetic addition from *FKS2* to *FKS1* can mediate micafungin resistance in *C. glabrata*. This case also suggests that morphological colony phenotypes may be associated with changes in micafungin susceptibility in *C. glabrata* isolates.

ACKNOWLEDGMENTS

We thank Nobuko Nakayama for excellent technical assistance.

This work was supported by a Health Science Research Grant for Research on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases (H24-Shinkou-Wakate-015) to K.T.

We have no conflicts of interest to declare.

REFERENCES

1. **Pappas PG, Kauffman CA, Andes D, Benjamin DK, Jr, Calandra TF, Edwards JE, Jr, Filler SG, Fisher JF, Kullberg BJ, Ostrosky-Zeichner L, Reboli AC, Rex JH, Walsh TJ, Sobel JD, Infectious Diseases Society of America.** 2009. Clinical practice guidelines for the management of candidiasis: 2009 update by the Infectious Diseases Society of America. Clin. Infect. Dis. **48**:503–535. http://dx.doi.org/10.1086/596757.
2. **Williams JG, Kubelik AR, Livak KJ, Rafalski JA, Tingey SV.** 1990. DNA polymorphisms amplified by arbitrary primers are useful as genetic markers. Nucleic Acids Res. **18**:6531–6535. http://dx.doi.org/10.1093/nar/18.22.6531.
3. **Pfaller MA, Moet GJ, Messer SA, Jones RN, Castanheira M.** 2011. Geographic variations in species distribution and echinocandin and azole antifungal resistance rates among Candida bloodstream infection isolates: report from the SENTRY Antimicrobial Surveillance Program (2008 to 2009). J. Clin. Microbiol. **49**:396–399. http://dx.doi.org/10.1128/JCM.01398-10.
4. **Inui S, Nakamura T, Tanabe K, Ohno H, Koike C, Okuda K, Nakata C, Fujimoto H, Ohkura H, Miyazaki Y, Takahashi H.** 2011. A case of micafungin-hyposensitive Candida glabrata due to FKS2 gene mutation. Kansenshogaku Zasshi **85**:49–53. (In Japanese.)
5. **Niimi K, Woods MA, Maki K, Nakayama H, Hatakenaka K, Chibana H, Ikeda F, Ueno K, Niimi M, Cannon RD, Monk BC.** 2012. Reconstitution of high-level micafungin resistance detected in a clinical isolate of Candida glabrata identifies functional homozygosity in glucan synthase gene expression. J. Antimicrob. Chemother. **67**:1666–1676. http://dx.doi.org/10.1093/jac/dks112.
6. **Dannaoui E, Desnos-Ollivier M, Garcia-Hermoso D, Grenouillet F, Cassaing S, Baixench MT, Bretagne S, Dromer F, Lortholary O.** 2012. Candida spp. with acquired echinocandin resistance, France, 2004–2010. Emerg. Infect. Dis. **18**:86–90. http://dx.doi.org/10.3201/eid1801.110556.
7. **Perlin DS.** 2007. Resistance to echinocandin-class antifungal drugs. Drug Resist. Updat. **10**:121–130. http://dx.doi.org/10.1016/j.drup.2007.04.002.
8. **Katiyar SK, Alastruey-Izquierdo A, Healey KR, Johnson ME, Perlin DS, Edlind TD.** 2012. Fks1 and Fks2 are functionally redundant but differentially regulated in Candida glabrata: implications for echinocandin resistance. Antimicrob. Agents Chemother. **56**:6304–6309. http://dx.doi.org/10.1128/AAC.00813-12.
9. **Zimbeck AJ, Iqbal N, Ahlquist AM, Farley MM, Harrison LH, Chiller T, Lockhart SR.** 2010. FKS mutations and elevated echinocandin MIC values among Candida glabrata isolates from U.S. population-based surveillance. Antimicrob. Agents Chemother. **54**:5042–5047. http://dx.doi.org/10.1128/AAC.00836-10.
10. **Katiyar S, Pfaller M, Edlind T.** 2006. Candida albicans and Candida glabrata clinical isolates exhibiting reduced echinocandin susceptibility. Antimicrob. Agents Chemother. **50**:2892–2894. http://dx.doi.org/10.1128/AAC.00349-06.
11. **Garcia-Effron G, Lee S, Park S, Cleary JD, Perlin DS.** 2009. Effect of Candida glabrata FKS1 and FKS2 mutations on echinocandin sensitivity and kinetics of 1,3-beta-D-glucan synthase: implication for the existing susceptibility breakpoint. Antimicrob. Agents Chemother. **53**:3690–3699. http://dx.doi.org/10.1128/AAC.00443-09.
12. **Alexander BD, Johnson MD, Pfeiffer CD, Jimenez-Ortigosa C, Catania J, Booker R, Castanheira M, Messer SA, Perlin DS, Pfaller MA.** 2013. Increasing echinocandin resistance in Candida glabrata: clinical failure correlates with presence of FKS mutations and elevated minimum inhibitory concentrations. Clin. Infect. Dis. **56**:1724–1732. http://dx.doi.org/10.1093/cid/cit136.
13. **Castanheira M, Woosley LN, Messer SA, Diekema DJ, Jones RN, Pfaller MA.** 2014. Frequency of fks mutations among Candida glabrata isolates from a 10-year global collection of bloodstream infection isolates. Antimicrob. Agents Chemother. **58**:577–580. http://dx.doi.org/10.1128/AAC.01674-13.

J Infect Chemother 20 (2014) 612–615

Contents lists available at ScienceDirect

Journal of Infection and Chemotherapy

journal homepage: http://www.elsevier.com/locate/jic

Original article

Potent drugs that attenuate anti-*Candida albicans* activity of fluconazole and their possible mechanisms of action

Makoto Urai [a], Yukihiro Kaneko [a, b, *], Mamiko Niki [b], Manabu Inoue [b], Koichi Tanabe [a], Takashi Umeyama [a], Hidesuke Fukazawa [a], Hideaki Ohno [a], Yoshitsugu Miyazaki [a]

[a] Department of Chemotherapy and Mycoses, National Institute of Infectious Diseases, Toyama 1-23-1, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8640, Japan
[b] Department of Bacteriology, Osaka City University Graduate School of Medicine, 1-4-3 Asahimachi, Abeno-ku, Osaka 545-8585, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 16 January 2014
Received in revised form
21 May 2014
Accepted 3 June 2014
Available online 5 July 2014

Keywords:
Candida albicans
Fluconazole
Combinatorial effect
Diclofenac
Ibuprofen
Omeprazole

ABSTRACT

Fluconazole (FLCZ) is a first-line drug for treating *Candida albicans* infections, but clinical failure due to reduced sensitivity is a growing concern. Our previous study suggested that certain drug combinations pose a particular challenge in potently reducing FLCZ's anti-*C. albicans* activity, and cyclooxygenase inhibitors formed the major group of these attenuating drugs in combination with FLCZ. In this study, we examined the effects of diclofenac sodium (DFNa) and related compounds in combination with FLCZ against *C. albicans*, and investigated their possible mechanisms of interaction. DFNa, ibuprofen, and omeprazole elevated the minimum inhibitory concentration (MIC) of FLCZ by 8-, 4-, and 4-fold, respectively; however, loxoprofen sodium and celecoxib did not. An analogue of DFNa, 2,6-dichlorodiphenylamine, also elevated the MIC by 4-fold. Gene expression analysis revealed that diclofenac sodium induced *CDR1* efflux pump activity, but not *CDR2* activity. In addition, an efflux pump *CDR1* mutant, which was manipulated to not be induced by DFNa, showed less elevation of MIC compared to that shown by the wild type. Therefore, DFNa and related compounds are potent factors for reducing the sensitivity of *C. albicans* to FLCZ partly via induction of an efflux pump. Although it is not known whether such antagonism is relevant to the clinical treatment failure observed, further investigation of the molecular mechanisms underlying the reduction of FLCZ's anti-*C. albicans* activity is expected to promote safer and more effective use of the drug.

1. Introduction

Candida albicans is known as the primary cause of systemic candidiasis, which has a high mortality rate [1]. Fluconazole (FLCZ) is a first-line drug for *C. albicans* infections, but clinical failure due to reduced drug sensitivity is a growing concern [2]. In addition, alternative therapeutic options are limited, and the development of new drugs has been slow. Therefore, the identification of effective and safe conventional antifungal agents is necessary. For this purpose, we previously investigated the combinatorial effect of FLCZ with other drugs, and showed that certain stress response inhibitors could enhance the effects of azoles and echinocandins [3,4]. In another study in which we screened the combinatorial effects of FLCZ with 640 drugs approved by the Food and Drug Administration (FDA), we found that some drugs could attenuate the anti-*Candida* activity of FLCZ [5], suggesting that certain combinations have a tendency to potently reduce the antifungal activity. One major group of such attenuating drugs was identified as the cyclooxygenase (COX) inhibitors, which are also known as nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) and are frequently used as antipyretics and analgesics. In contrast to our findings, other previous reports suggested that COX inhibitors could synergistically or additively enhance the anti-*C. albicans* and anti-*Candida* biofilm activity of FLCZ [6–15]. However, relatively high concentrations of these drugs were used in these studies. In order to estimate the actual interaction of these drugs, we examined their dose- and structure-dependent effects, and investigated the possible mechanisms underlying their combinatorial effects with FLCZ against *C. albicans*.

* Corresponding author. Department of Bacteriology, Osaka City University Graduate School of Medicine, 1-4-3 Asahimachi, Abeno-ku, Osaka 545-8585, Japan. Tel.: +81 06 6645 3745; fax: +81 06 6645 3747.
E-mail address: ykaneko@med.osaka-cu.ac.jp (Y. Kaneko).

http://dx.doi.org/10.1016/j.jiac.2014.06.004
1341-321X/

2. Materials and methods

2.1. Chemicals

All general chemicals used in this study were purchased from Wako Chemicals (Tokyo, Japan) unless otherwise indicated, and were of the highest purity available. Ultra-pure water dispensed by a Milli-Q water system (Millipore; Bedford, MA, USA) was used for the preparation of buffers and solvents. FLCZ was purchased from Sigma Aldrich (St. Louis, MO, USA). Four COX inhibitors, diclofenac sodium (DFNa), ibuprofen (IBU), loxoprofen sodium (LOX), and celecoxib (CEL), a proton pump inhibitor, omeprazole (OPZ), and an analogue of DFNa, 2,6-dichlorodiphenylamine (2,6-DPA), were used as the combination drugs. Each drug was dissolved in dimethylsulfoxide (DMSO) at 2 mg/mL for stock solution and stored at −20 °C. Standard ergosterol was dissolved in methanol at 1 mg/mL.

2.2. Strains and growth conditions

The standard *C. albicans* strain SC5314 and an efflux pump *CDR1* mutant, TU202, were used in this study [16]. TU202 has an *ACT1* promoter-driven *CDR1* gene instead of the disrupted native *CDR1* gene (Δ*CDR1* with p*ACT1-CDR1*), which results in constant *CDR1* expression independent of exogenous stimulation. The strains used are listed in Supplemental Table S1. We also used two additional *C. albicans* strains ATCC10231 and ATCC10261.

We used yeast nitrogen base medium (YNB; Difco Laboratories; USA) with 2% dextrose (YNB2D) instead of RPMI medium, which is recommended as standard medium by the Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI). YNB2D was used because growth was slow in RPMI, which made it difficult to detect the combinatorial effect. A single colony was inoculated in the medium, and cells were grown in YNB2D at 37 °C with agitation. For microdilution, after the cell density of the overnight culture was measured, the cell suspension was diluted with YNB2D to inoculate approximately 1×10^4 colony-forming units (cfu)/mL of cells for the subsequent experiments. For cellular sterol and gene expression analysis, mid-log phase yeast was incubated with or without DFNa (25 μM) and/or FLCZ (0.5 μg/mL) in 5 mL of medium at 37 °C with agitation, and the cells were pelleted 4 h after treatment.

DFNa is an FDA-approved drug, and we previously reported that it attenuated FLCZ activity against *C. albicans* [5]. We tested the dose-dependent effect of DFNa on the anti-*C. albicans* activity of FLCZ. High concentration of DFNa (>250 μM) alone remarkably inhibited the growth of *C. albicans*; therefore, the combinatorial effect was tested at lower concentrations.

2.3. Microdilution methods for evaluation of combinatorial effects

The cells were seeded in 96-well plates in the presence of the combination drugs and FLCZ and incubated at 37 °C without agitation. FLCZ was serially diluted in the plates and the other drugs were used at the doses indicated in Table 1. After 24 h, cell growth was monitored by measuring the optical density at 630 nm (OD_{630}) by using a microplate reader.

Minimum inhibitory concentration (MIC) was defined as 50% or more growth inhibition compared to the growth without FLCZ treatment, and the growth inhibition was evaluated by the reduction of the OD_{630} as measured above.

2.4. Analysis of cellular sterols

C. albicans is known to have several resistance mechanisms: 1) alternative sterol synthesis, 2) overexpression of ergosterol synthesis, and 3) activated or overexpressed efflux pumps. We first investigated whether DFNa altered ergosterol synthesis by using TLC analysis. Cell pellets were suspended in 4 mL of 1% NaCl solution and lipids were extracted by using Bligh-Dyer methods [17]. The extracted lipids were dried and resolved in chloroform/methanol (2:1). Standard ergosterol (5 μg) and 5 μL of the solution were spotted on a thin layer chromatography (TLC) plate, and lipids were separated in hexan/diethylether/acetate (25:25:1). Spots were visualized after spraying $FeCl_3/CH_3COOH/H_2SO_4$ solution on the plate, and the image was obtained using a scanner.

Table 1
Effects of COX inhibitors and a proton pump inhibitor on the antifungal activity of FLCZ against *C. albicans* SC5314 and TU202.

Strains and drugs		MIC (μg/mL)
SC5314 (wild type)		
FLCZ only		0.5
FLCZ + COX inhibitor	DFNa (25 μM)	4
	IBU (20 μM)	2
	LOX (20 μM)	0.5
	LOX (160 μM)	0.5
	CEL (25 μM)	0.5
	CEL (50 μM)	0.5
FLCZ + analogue of DFNa	2,6-DPA (25 μM)	2
FLCZ + proton pump inhibitor	OPZ (20 μM)	2
TU202 (Δ*CDR1* with p*ACT1-CDR1*)		
FLCZ only		0.5
FLCZ + DFNa (25 μM)		1

2.5. Analysis of gene expression

RNA extraction from the pelleted cells and the subsequent real-time polymerase chain reaction (RT-PCR) were performed as previously reported [3,18]. Briefly, approximately 800 ng of total RNA was used as a template to synthesize the cDNA (final volume, 20 μL) and cDNA equivalent to approximately 40 ng of total RNA was used as a template for RT-PCR. The actin gene, *ACT1*, was used as the internal control, and all expression values were normalized against *ACT1* expression. The sequences of the RT-PCR primers are listed in Supplemental Table S1. The data were analysed using Student's *t*-tests. The data are presented as fold changes in comparison to the control (untreated) and the mean ± standard error (SE) of replicates ($n = 4$). The data are representative of 3 or more individual experiments.

3. Results

3.1. DFNa and related compounds reduce the anti-C. albicans activity of FLCZ

At 2.5 μM and 25 μM, DFNa shifted the dose–response curves, indicating a reduction in the anti-*C. albicans* activity of FLCZ (Fig. 1). DFNa also shifted the dose–response curves in the two additional *C. albicans* strains ATCC10231 and ATCC10261 (Supplemental Fig. S1).

To evaluate whether the COX structure or inhibiting function affect the anti-*C. albicans* activity of FLCZ, the COX-related compounds were tested (Table 1). IBU also elevated the MICs by 4-fold; however, LOX and CEL did not alter the MICs, even at doses of 160 μM and 50 μM, respectively. We also tested an analogue of DFNa, 2,6-DPA, which similarly elevated the MICs by 4-fold. OPZ also elevated the MICs by 4-fold.

3.2. Attenuated anti-C. albicans activity of FLCZ partly depends on induced CDR1 expression

FLCZ quenched ergosterol synthesis (Fig. 2, lane 3), but ergosterol reappeared when DFNa was added (Fig. 2, lane 4), and DFNa alone did not alter the ergosterol spot pattern (Fig. 2, lane 5).

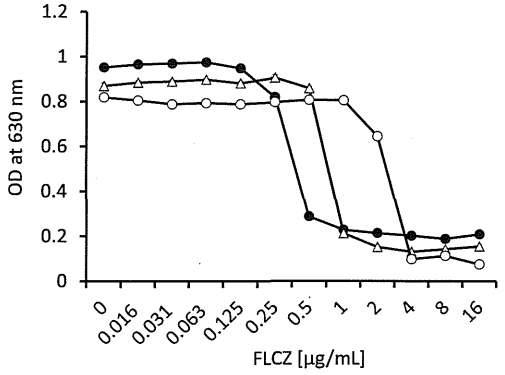


Fig. 1. Effect of DFNa on the antifungal activity of FLCZ against *C. albicans* SC5314. Closed circles, FLCZ alone; open triangles, DFNa (2.5 μM); open circles, DFNa (25 μM). The MIC was 0.5 μg/mL with FLCZ alone, but shifted to 1 μg/mL and 4 μg/mL when 2.5 μM and 25 μM of DFNa were added, respectively.

We next evaluated the expression of genes that are related to ergosterol synthesis and efflux pumps. FLCZ induced *ERG3*, *ERG9*, and *ERG11* gene expressions, which were markedly reduced following the addition of DFNa (Fig. 3a, DFNa + FLCZ), and were not induced by DFNa alone (Fig. 3a, DFNa). These findings suggested that DFNa did not directly affect ergosterol synthesis, and that the reduced anti-*C. albicans* activity is independent of alterations in ergosterol synthesis. *CDR1* was significantly induced by DFNa with or without FLCZ (Fig. 3b, FLCZ + DFNa, DFNa) but not by FLCZ alone (Fig. 3b, FLCZ), whereas *CDR2* was not induced by any drug or drug combination. IBU, 2,6-DPA and OPZ also induced *CDR1* expression, but LOX and CEL did not (Supplemental Fig. S2).

Gene expression analysis suggested that *CDR1* induction was responsible for the reduced anti-*C. albicans* activity of FLCZ. Therefore, we evaluated whether the induction of *CDR1* expression was necessary for the effect. The TU202 mutant has an *ACT1* promoter-driven *CDR1* gene instead of the disrupted native *CDR1* gene (Δ*CDR1* with p*ACT1-CDR1*), which results in the constant expression of *CDR1* independent of exogenous stimulation. The MIC curves of the wild type and TU202 were comparable without DFNa; however, the shift of the curve induced by DFNa in the wild type

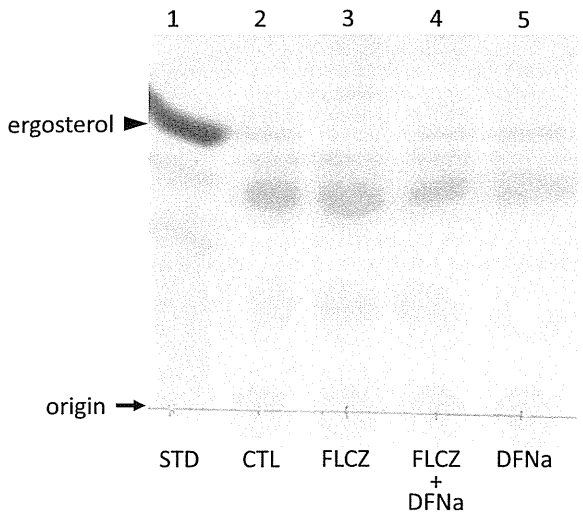


Fig. 2. Profiles of cellular sterols separated by thin layer chromatography. Lane 1, ergosterol standard (STD); lane 2, untreated control (CTL); lane 3, FLCZ-treated; lane 4, FLCZ and DFNa-treated; lane 5, DFNa-treated. The ergosterol spot disappeared when FLCZ was added alone (lane 3), but was restored following the addition of DFNa (lane 4).

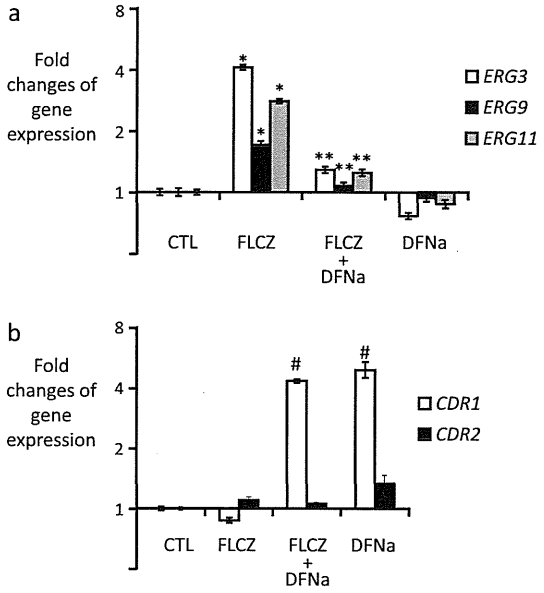


Fig. 3. Expression levels of representative genes related to the FLCZ resistance of *C. albicans*. a, Ergosterol synthesis. White, black, and grey bars indicate the expression of *ERG3*, *ERG9*, and *ERG11*, respectively; FLCZ significantly induced these genes but DFNa did not. b, Efflux pumps. White and black bars indicate *CDR1* and *CDR2* expression, respectively; DFNa significantly induced *CDR1*, with or without FLCZ, but not *CDR2*. CTL, control; FLCZ, fluconazole alone; FLCZ + DFNa, fluconazole with diclofenac sodium; DFNa, diclofenac sodium alone. **P* < 0.001 compared to CTL; ***P* < 0.005 compared to FLCZ; #*P* < 0.001 compared to CTL and FLCZ.

was partly diminished in TU202, suggesting that induced *CDR1* partly contributed to the attenuated anti-*C. albicans* activity of FLCZ by DFNa (Fig. 4).

4. Discussion

High doses of COX inhibitors have previously been reported to enhance azoles' anti-*Candida* activity [6–15]. Our study is the first to show that DFNa and IBU are potent factors contributing to the attenuation of this activity at lower doses though Arai R. et al. showed synergism of FLCZ and IBU. When used at therapeutic doses, the maximum blood concentrations of DFNa and IBU were

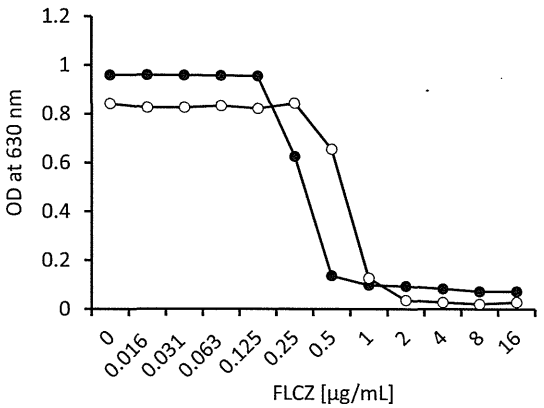


Fig. 4. Effect of DFNa on the antifungal activity of FLCZ in a *CDR1* mutant, TU202. TU202 has an *ACT1* promoter-driven *CDR1* gene instead of the disrupted native *CDR1* gene (Δ*CDR1* with p*ACT1-CDR1*), which results in the constant expression of *CDR1* independent of exogenous stimulation. Closed circles, FLCZ alone; open circles, DFNa (25 μM). The dose–response curves of TU202 were comparable to those of the wild type without the addition of DFNa. DFNa shifted the dose response curve in TU202 less than it did in the wild type.

reported to be 9 μM and 15–50 μM, respectively [19,20]. Therefore, the concentrations we used in this study were closer to the clinically available concentrations than those tested in most previous reports [6–15], with the exception of the study by Arai et al. [14] showing that IBU did not affect FLCZ activity against other strains at a concentration close to that used in the present study. Interestingly, the anti-*Candida* activity of FLCZ was not altered by either LOX or CEL. LOX is frequently used in Japan but not in the US, and CEL is a selective COX2 inhibitor that is dissimilar to traditional COX inhibitors. Therefore, our findings and those of previous reports suggest that the combinatorial effect of COX inhibitors could be dependent on the tested strains and conditions, as well as the specific type of inhibitors used.

We also identified possible mechanisms underlying FLCZ resistance to *C. albicans*. Our data could not completely explain the mechanisms by which DFNa attenuated FLCZ activity, but suggested that induced *CDR1* pumps, which are most frequently related to FLCZ resistance of *C. albicans*, might be at least partially involved in the effect. IBU and OPZ may be also able to disturb the anti-*Candida* activity of FLCZ, possibly via the same mechanism. In contrast to our results, IBU has been reported to reverse the antifungal resistance of *C. albicans* overexpressing *CDR* genes (12). Therefore, the effect of these drugs appears to fluctuate, and it is difficult to accurately predict how the drugs will interact with antifungal agents. We also showed that the mechanism might be independent of COX activity inhibition, as LOX and CEL did not show the reduced anti-*Candida* activity effect. In addition, an analogue of DFNa did show the effect, suggesting that the mechanism might be more related to the structure of the compounds rather than to the inhibition of COX function; however, the structure–activity relationship could not be clearly determined.

In conclusion, several COX inhibitors and proton pump inhibitors show potent effects on reducing the sensitivity of *C. albicans* to FLCZ at clinically realistic concentrations, possibly via inducing an efflux pump. Although it is not known whether this antagonistic effect is the main cause of clinical treatment failure, further investigation of the molecular mechanisms underlying the effect of the reduction on FLCZ's anti-*Candida* activity is expected to promote safer and more effective use of these drugs.

Conflict of interest

None.

Acknowledgements

This work was partly supported by grants from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan (KAKENHI 24791032), the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan (H23shinkouippan018), and the Takeda Science Foundation.

Appendix A. Supplementary data

Supplementary data related to this article can be found online at http://dx.doi.org/10.1016/j.jiac.2014.06.004.

References

[1] Mavor AL, Thewes S, Hube B. Systemic fungal infections caused by *Candida* species: epidemiology, infection process and virulence attributes. Curr Drug Targets 2005;6:863–74.
[2] Cannon RD, Lamping E, Holmes AR, Niimi K, Baret PV, Keniya MV, et al. Efflux-mediated antifungal drug resistance. Clin Microbiol Rev 2009;22:291–321. Table of contents.
[3] Kaneko Y, Ohno H, Fukazawa H, Murakami Y, Imamura Y, Kohno S, et al. Anti-*Candida*-biofilm activity of micafungin is attenuated by voriconazole but restored by pharmacological inhibition of Hsp90-related stress responses. Med Mycol 2010;48:606–12.
[4] Kaneko Y, Ohno H, Imamura Y, Kohno S, Miyazaki Y. The effects of an hsp90 inhibitor on the paradoxical effect. Jpn J Infect Dis 2009;62:392–3.
[5] Kaneko Y, Fukazawa H, Ohno H, Miyazaki Y. Combinatory effect of fluconazole and FDA-approved drugs against *Candida albicans*. J Infect Chemother 2013;19:1141–5.
[6] Alem MA, Douglas LJ. Effects of aspirin and other nonsteroidal anti-inflammatory drugs on biofilms and planktonic cells of *Candida albicans*. Antimicrob Agents Chemother 2004;48:41–7.
[7] de Quadros AU, Bini D, Pereira PA, Moroni EG, Monteiro MC. Antifungal activity of some cyclooxygenase inhibitors on *Candida albicans*: PGE2-dependent mechanism. Folia Microbiol (Praha) 2011;56:349–52.
[8] Scott EM, Tariq VN, McCrory RM. Demonstration of synergy with fluconazole and either ibuprofen, sodium salicylate, or propylparaben against *Candida albicans* in vitro. Antimicrob Agents Chemother 1995;39:2610–4.
[9] Yucesoy M, Oktem IM, Gulay Z. In-vitro synergistic effect of fluconazole with nonsteroidal anti-inflammatory agents against *Candida albicans* strains. J Chemother 2000;12:385–9.
[10] Pina-Vaz C, Sansonetty F, Rodrigues AG, Martinez-De-Oliveira J, Fonseca AF, Mardh PA. Antifungal activity of ibuprofen alone and in combination with fluconazole against *Candida* species. J Med Microbiol 2000;49:831–40.
[11] Hynninen VV, Olkkola KT, Leino K, Lundgren S, Neuvonen PJ, Rane A, et al. Effects of the antifungals voriconazole and fluconazole on the pharmacokinetics of s-(+)- and R-(-)-Ibuprofen. Antimicrob Agents Chemother 2006;50:1967–72.
[12] Ricardo E, Costa-de-Oliveira S, Dias AS, Guerra J, Rodrigues AG, Pina-Vaz C. Ibuprofen reverts antifungal resistance on *Candida albicans* showing overexpression of *CDR* genes. FEMS Yeast Res 2009;9:618–25.
[13] Bink A, Kucharíková S, Neirinck B, Vleugels J, Van Dijck P, Cammue BP, et al. The nonsteroidal antiinflammatory drug diclofenac potentiates the in vivo activity of caspofungin against *Candida albicans* biofilms. J Infect Dis 2012;206:1790–7.
[14] Arai R, Sugita T, Nishikawa A. Reassessment of the in vitro synergistic effect of fluconazole with the non-steroidal anti-inflammatory agent ibuprofen against *Candida albicans*. Mycoses 2005;48:38–41.
[15] Pina-Vaz C, Rodrigues AG, Costa-de-Oliveira S, Ricardo E, Mardh PA. Potent synergic effect between ibuprofen and azoles on *Candida* resulting from blockade of efflux pumps as determined by FUN-1 staining and flow cytometry. J Antimicrob Chemother 2005;56:678–85.
[16] Umeyama T, Nagai Y, Niimi M, Uehara Y. Construction of FLAG tagging vectors for *Candida albicans*. Yeast 2002;19:611–8.
[17] Bligh EG, Dyer WJ. A rapid method of total lipid extraction and purification. Can J Biochem Physiol 1959;37:911–7.
[18] Kaneko Y, Ohno H, Kohno S, Miyazaki Y. Micafungin alters the expression of genes related to cell wall integrity in *Candida albicans* biofilms. Jpn J Infect Dis 2010;63:355–7.
[19] Hasan SM, Ahmed T, Talib N, Hasan F. Pharmacokinetics of diclofenac sodium in normal man. Pak J Pharm Sci 2005;18:18–24.
[20] Albert KS, Gernaat CM. Pharmacokinetics of ibuprofen. Am J Med 1984;77:40–6.